

第6学年B組 外国語活動学習指導案

授業者 石田 智之 (HRT), Roberto Bonilla (ALT)
研究協力者 佐々木雅子, 若原 保彦
教材分析協力者 佐々木和貴, Adrian Paterson

1 単元名 I want to be a zookeeper. 将来の夢を語り合おう

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

本学級の子どもたちは、コミュニケーションの楽しさを味わえる子どもを育てられるような授業づくりの中で、英語を一つの大切なツールとしながら、会話を弾ませようと工夫する姿が随所に見られるようになってきている。相手の言葉には反応したいな、自分の伝えたいことが伝わるように工夫したいな、そんな思いをもてるようになってきている。修学旅行の自主研修でねらった外国人観光客との交流では、積極的に外国人観光客に話しかけていく子どもたちの姿が函館の街でたくさん見られた。

コミュニケーションを楽しめる子どもたちではあるが、「話すこと（発表）」領域においては、恥ずかしさが先行し声を出すことを躊躇している子どもも見受けられるため、発表領域の扱いの工夫が必要と考えている。

(2) 単元について

本単元は、「Hi, friends! 2」のLesson8「What do you want to be?『夢宣言』をしよう」及び「We Can! 2」のUnit8「What do you want to be? 将来の夢・職業」をもとに構成している。「I want to be ~.」「What do you want to be?」等の表現や職業に関する語彙に慣れ親しみ、自分の将来の夢を発表することを本単元のゴールとしている。子どもたちは今、中学校入試の自己申告書記述や面接に向け、将来の職業を真剣にかつ具体的に考えなければならない状況にある。入試・卒業・進学と人生の一つの転換期に向かう子どもたちの関心事であることから、単元のゴールを意識して活動させたり、適切な場面設定で繰り返して慣れ親しんだりさせることによって、語句や表現の定着に近づけることができるのではないかと期待している。

単元のゴールは「話すこと（発表）」領域である。友達の前で何かを話す活動は、日本語であっても苦手とする子どもたちがいるものであり、英語であれば更に工夫のある活動が求められる。本単元では「話すこと（発表）」領域ではあるが、「話すこと（やり取り）」の要素も取り入れ、双方向の発話による「発表」の場面も創造したいと考えている。

本単元では、慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする態度や能力を高めていくことを目指している。本校の外国語活動の「見方・考え方」による「よりよいコミュニケーション」をつくる「文化理解の視点（相手理解）」を中心に話題や伝えたい内容を考え、既習表現を活用しながらの総合的なコミュニケーション力が高められることを期待し、本単元を設定した。

(3) 指導について

本単元では、伝えようとする目的や内容に着目し、それらに応じた話題や英語表現、コミュニケーション方略を工夫を考えると「見方・考え方」を働かせた学習活動を単元を通して位置付けていく。伝えたいこと、伝えるべきことが表現できたり、友達が伝えたい内容を理解できたりした思いや経験が、コミュニケーションの楽しさにつながるものと期待している。

本単元では「将来の夢を発表すること（夢発表）」を単元のゴールとし、単元を貫く目的意識をもって語句や表現に慣れ親しむことのできる単元構成にする。例えば、友達同士でコミュニケーションする中で付け足すべき内容や表現を探ったり、夢発表のためのシミュレーションの場を設定したりする。なお、ゴールは「発表」であるが、発表者からの一方通行にならないように、聞く側からもそれに応える言葉かけや反応ができるような表現を取り入れていきたいと考えている。

第1時では、単元のゴールを示すことによって活動の見通しをもたせ、職業に関する語彙と「I want to be ~.」の表現に慣れ親しむ活動を中心に行う。その際、「-er」「-ist」の付く職業名と日本語の「〇〇師」「〇〇員」「〇〇家」等との類似点への気づきを促し、言語的な関心を高めたい。

第2時では、自分が紹介したい夢の表し方を確かめた上で、「What do you want to be?」「I want to be ~.」の形でのコミュニケーション活動をおして互いの夢を紹介し合う活動を行う。

第3時は、夢発表に向けて「I want to be ~.」だけでなく、その理由を知らせる必要感を高めながら、表現を付け足して発表内容の工夫を考える活動をする。自分に必要な発表内容のために、友達ともコミュニケーションしながら、既習表現の活用、言い換えやジェスチャー等の表現方法の工夫をしていく姿が本単元での「自律した学習者」ではないかと考えている。

チャレンジタイムの時間も含め第4時は、例文を参考に発表原稿を書く時間とする。その際、子どもたちが原稿を作成しやすいように、主に既習表現を用いた例文や使えるようなワードリストを準備しておく。また、イラストや写真、ジェスチャーを用いた伝え方の工夫も必要に応じて取り入れられるよう助言する。さらに、国語科で学んだスピーチの基本を生かして問いかけの文「Do you know/like ~?」「Fantastic dream?」等の相手の興味を引く表現にも目を向けられるようにしていく。

第5時およびチャレンジタイムではクラス内での夢発表を行う。10人程度の中での発表とし、クラス内でのゴールではあるが、学年内発表へ向けた準備時間としても位置付け、発表に対する反応を工夫するよう意識づける。その際、発表者を励ますような英語表現を紹介したり、既習表現や相手理解を生かした言葉かけの仕方の工夫を促したりしていく。

最終ゴールは、チャレンジタイムを使っの学年内夢発表とし、更に広く伝え合い励まし合いながら、他クラスの友達との交流があなたたかいものになるよう期待している。

- 3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉
- (1) 将来就きたい職業について伝え合う表現に慣れ親しみ、それらを用いて話す。〈2, 12, 20〉
 - (2) 将来就きたい職業について伝え合い、その理由の伝え方や発表者への反応の仕方を考えようとする。〈イ〉
 - (3) 他者に配慮しながら、将来の夢について伝え合おうとする。〈オ〉

4 単元の構想（総時数 5 時間） ※「見方・考え方」を働かせた学習活動

Lesson5 I want to go to Italy. 世界旅行プランをつくろう！ Lesson6 He is famous. He is great.

※CT：チャレンジタイム英語（朝の15分活動）の時間

○本単元で育む主な資質・能力
慣れ親しんだ表現や自分の知る範囲の語彙を用いて、実際のコミュニケーションにおいて活用しようとする。（オ）

時間	学習活動	教師の主な支援 (H)：HRT, (A)：ALT	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1) 単元のゴール及び職業名や「I want to be ～.」の表現を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手を意識して話題を考える経験をもとに、見通しがもてるよう単元のゴールを示す。(H)&(A) ・ 英語と日本語の類似点への気付きを促す。(H) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業名や「～になりたい。」を表す英語表現に慣れ親しんでいる。〈12〉
単元のゴール：クラスや学年の友達に夢発表をしよう！			
CT	・ 自分の夢の英語での言い方を確かめる／調べる。		
2	(2) 「What do you want to be?」「I want to be ～.」の表現を使い、互いの夢を伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 辞書で調べた語句の発音をALTに確かめたり、難しい職業名の伝え方の工夫を考えたりする時間をもつ。(H)&(A) ・ 次に付け足していききたい内容の見通しをもてるよう、伝え合った感想を出し合う時間を設定する。(H) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業名や「何になりたい?」「～になりたい。」を表す英語表現に慣れ親しんでいる。〈2, 12〉
3 本時	(3) 夢の職業に就きたい理由の表現の仕方を考え、発表内容を工夫する。 〈予想される子どもの反応〉 ・ I like ～. ・ I can ～. ・ I'm good at ～. ・ It is very ～. ・ I want to ～. ・ My father is ～.	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理由を表現しようとする必要感を高め、既習表現を活用して言いたいことを表せることに気付けるような活動を取り入れる。(H)&(A) ・ 友達の見通しや友達からの質問を参考に、自分の表現や内容を修正できるよう促す。(H) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既習表現に着目し、表現の仕方や発表内容を考えようとしていく。〈イ〉
CT	・ 発表原稿を書く。		
4	(4) 例文を参考に発表原稿を書いたり、伝わりやすい発表の工夫を考えたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しく書き写して作成できるように、例文やワードリストを用意する。(H) ・ 正しく書けているかチェックし、伝え方の工夫も促す。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 工夫しながら、自分の夢を伝えようとしている。〈イ〉
CT	・ 発表練習をする。		
5	(5) クラス内で、理由を含めた夢発表をする中で、聞く側の反応の工夫をする。 〈予想される子どもの反応〉 ・ You can ～. ・ You are ～. ・ You are good at ～. ・ Good luck! ・ It's wonderful. ・ Nice dream! ・ I know ～. ・ I think ～.	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちが自信をもって夢発表に取り組めるよう、的確な英語表現や適切な表現方法の助言をする。(H)&(A) ・ 聞く側の反応が励ましの言葉としても大切であることを確かめ、使えそうな英語表現を考える時間をもつ。(H)&(A) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積極的に夢発表をしている。〈オ〉 ・ 夢発表で、慣れ親しんだ英語表現を用いて話している。〈20〉
CT	・ 学年内で夢発表をし、聞く側も励ましの言葉をかける。		

・本単元の学習活動で働かせる主な「見方・考え方」
伝えようとする目的や内容に着目し、それらに応じた話題や英語表現、コミュニケーション方略の工夫を考える。

5 本時の実際 (3 / 5)

(1) ねらい
 伝えたいことに合った既習表現に着目し、夢の職業に就きたい理由の表現の仕方や内容を考えようとしている。 <イ>

(2) 展開 ○省察を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 (H) : HRT, (A) : ALT 評価				
5分	① ウォームアップをする。	<ul style="list-style-type: none"> 活動へ向かう雰囲気づくりのために英語によるあいさつや Listen & Think をする。(H) & (A) 				
7分	② ゴールを確かめる。	<ul style="list-style-type: none"> 意欲を持続させるために、単元のゴールに向けた見通しを確かめる。(H) 				
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">Goal of Lesson7</td> <td>クラスや学年の友達に夢発表をしよう！</td> </tr> <tr> <td>Today's Goal</td> <td>夢発表の内容を工夫しよう！</td> </tr> </table>		Goal of Lesson7	クラスや学年の友達に夢発表をしよう！	Today's Goal	夢発表の内容を工夫しよう！	
Goal of Lesson7	クラスや学年の友達に夢発表をしよう！					
Today's Goal	夢発表の内容を工夫しよう！					
	<ul style="list-style-type: none"> 職業の名前だけを言って終了というのは、なんか不自然な空気があったよね。 なぜになりたいのか理由を聞かれても答えられるようにしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動の見通しがもてるよう、前時で残された課題を確認する。(H) 子どもたちの夢発表に「Why?」で返し、理由や発表内容を工夫していく必要感を高める。(H) & (A) 				
8分	③ 夢発表に使えるような英語表現を考え、慣れ親しむ。	<ul style="list-style-type: none"> どんな内容を付け加えるべきか、英語表現はどう工夫すべきかを出し合いながら、それらの英語表現に慣れ親しめる活動を設定する。(H) & (A) 子どもたちが真意を訳そうとすると難しい英語を必要とすることが多いと予想されるため、既習表現をもとに言い換えるとよいことを例示する。(H) & (A) 				
7分	④ 具体例を使い、全体で表現の工夫を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な人物を使い、既習表現を用いてどう表現すべきかを考えられるシミュレーション場面を作る。(H) 子どもたちから出てこなかった考え(表現方法)を補足する。(H) & (A) 使えるような表現については、例文を四線黒板で示す。(H) & (A) 				
15分	⑤ 自分の夢発表に1～2文付け足して伝え合う。	<ul style="list-style-type: none"> 全体で共有した表現の仕方を生かし、子どもたちが自分の夢発表に1～2文程度を付け足せるよう助言する。(H) & (A) ○ 友達の表現や友達からの質問を参考に、自分の表現や内容を修正できるよう促す。(H) ALT または HRT にも必ず伝えることとし、表現や工夫の示唆を与える。(H) & (A) 				
3分	⑥ 本時の活動をふり返る。	<ul style="list-style-type: none"> 「Goal of Lesson7」「Today's Goal」を確認しながらふり返ることで、単元全体への意欲や、子どもたちが自己の伝え方の向上を確かめられるよう促す。(H) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>夢の職業に就きたい理由が伝わるように、既習表現を使ったり言い換えたりして、表現の工夫をしようとしている。 <イ> (ふり返り、活動の様子)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動をふり返り、次時の課題や内容の確認をする。(H) & (A) 				